

合体発想で企画頭を鍛える

どうしたら発想力は豊になりますか？ と聞かれることがあります。

技術的・手法的なことは別にして、まず大事なことは「常に考えていること」だと考えます。偶然の女神は、常に考えている人の頭上で微笑みます。「何でそんなことを思いついたの」と聞かれれば、「偶然に」としか答えようがありません。偶然とは確率です。考えた量に、0.00 何パーセントという係数を掛け算するわけですから、要は、考えた量の大きさが決め手です。

では、どのように考えていけばいいかという、「合体」について考えていけばいいと思います。「カレーうどん」も「グリコの 味ポッキー」も、みな合体商品です。ピンの栓抜きや観光土産物の鉛筆の頭に何かくっついているのも、全て合体商品です。オーストラリアに行くと、カンガルーの前足を柄にした栓抜きの土産があります。志村ケンや加藤ちゃんペットの人形が頭にくっついた鉛筆がありますから、歴代中国指導者のくっついた鉛筆を中国で売り出せば儲かるかもしれません。今、ヨン様鉛筆を探していますが、ヨン様は肖像権に厳しいようです。私たちが思いつく鉛筆や栓抜きは、必ず世界のどこかで誰かが作っていると思われるほどです。

最初は、このようにして合体商品を考えます。思考のお遊びです。コンビニに行って、ポッキーの陳列を定点観測するのもよいでしょう。それから、次は、何でもいから合体させておいて、そこから発想を膨らませる訓練をします。例えば、以下のようなことです。

携帯電話の進化（機能の付加）をたどってみましょう。

重たく大きな移動電話は、電話するしかできない機械だった・・・。

・・・今のケータイには、どのような機能が付加されていますか。

20年前の移動電話（自動車電話）

次に、今のケータイに、何か別の機能を合体させてみてください。

例えば、ケータイ + 体脂肪計、虫眼鏡、体温計・・・

さて、そのケータイは、どのような使い方ができますか。







ケータイ

+

?

バーコードリーダー付き携帯電話というのはどうでしょう！

例えば、高齢者や身体障害者などが、下図のようなバーコード表を持っていて、ここに携帯電話をかざしてコードを読み取ると自動的に電話がかかる。ボタン操作がうまくできない人には便利。緊急時には、本人に代って電話することもできる。(これは、既にあるでしょうね。見たことないけど。)お年寄りには、カメラ付よりバーコードリーダー付の方が利用価値が高いかもしれません。

	太郎 (長男 / 東京都千代田区)
	花子 (長女 / 京都府左京区)
	市民病院 (かかりつけの診療所など)
	警備会社
	 バーコード

















バーコードを使ったドア開錠システムも考えてみました！

マンションの玄関や個人住宅の玄関の開錠に関して、従来のようにIDカードをリーダーに通して本人確認・開錠するのではなく、携帯電話のバーコードリーダーを用いて開錠する。

開錠の手順 1 「命令権」の取得

ドアの脇に下図のようなバーコードテーブルを設置。これは電気的な仕掛けもなにもない、単なるバーコードの印刷物でよい。あるいは、固定のテーブルを設置する必要もなく、個人が小さなカードとして持ち歩いてよい。

開錠を希望する人は、携帯電話についているバーコードリーダーで、個人の固有の順番で3～4つのバーコードを読み取る。例えば、下図のように16個のバーコードテーブルから、順に3つを読み取る順列は、 $16 \times 15 \times 14 = 3360$ 通りとなる。

バーコードテーブル

携帯電話には、上記の順番が正しいかどうかを判断する機能がある。つまり、固有の携帯電話には、固有の読み取り順番が記憶されており、その携帯電話の持ち主であるから、入室を許される個人であると判断する。

このとき、携帯電話からは、自動的に、読み取ったバーコード情報を、(仮称)開錠管理会社(のコンピュータシステム)に送信する。このとき当然、携帯電話の固有番号も通知される。ただし、それだけで開錠されるわけではなく、その携帯電話の所有者に開錠の「命令権」が付与されたことになる。

開錠手順 2 「開錠命令」を出す

(仮称)開錠管理会社では、受信したバーコード情報、携帯電話番号が一致した場合のみ、その携帯電話に「ドアの開錠命令」を出せという旨のメッセージを送信する。

そのメッセージを受信した携帯電話の持ち主は、あらかじめ暗証番号を返信する。この暗証番号が承認された時点で、開錠される。

バーコードテーブルを持ち歩いていれば、遠隔地からでもドアの開錠が可能になる。

・・・というようなことを考えてみる。これは、まず何かを合体させておいて、無理やりに発想するという頭の訓練の方法です。このアイデアがいけるかどうかは、後で検討します。(ただし、誰よりも先に急いで検討する。世界中の人が競争しているから。)

さて、携帯電話に体温計や体脂肪計をくっつけたらどんな発想が浮かびますか。電気ポットでありながら、実は電話もしてくれるというようなコピキタスな商品もあります。私たちは、知らない間に、そのような商品に囲まれて生活するようになっていきます。

机の上にあるもの、ポケットの中のもの、何でも合体させておいて、色々で発想してみましょう。携帯電話と文学を合体させれば、ナビ4号で紹介した「親指文学大会」になります。実体のないものと合体させても構いません。携帯電話と何か困りごとを合体させて発想することも有効です。

コンニャクについて

コンニャクには、まだ合体商品が足りないように思います。

コンニャクにアンコが入った「アンニャク」があれば、(とりあえず)食べてみたいと思いますが、自分ではコンニャクを作れないので、わが家の農産加工場「びばりいひるず」で誰かやってくれないかと思っています。アンニャク玉のような食品があれば、それをダゴ汁の具にできないか、とも考えます。やっぱり美味しくないのでしょうか。(もしかすると、私が知らないだけで、志村ケン鉛筆のように、どこかにあるかもしれません。インターネットで検索してもヒットしませんでした。)

どこの物産館に行っても、加工グループの手作りコンニャクがあります。しかし、どれも同じような純粹コンニャクです。実は、コンニャクは、何か混ぜ物をするとう灰汁の働きが中和されて固まらないという問題が生じます。また、本来コンニャクとは、色々な味付けをしやすいように素のままがいいのかもしれませんが、しかし、それでもなお、農産加工グループは怠慢ではないか。手作りコンニャクも、そろそろポッキーの道を歩みはじめるべきではないか。物産館の手作り商品群に爆発的な種の変化を。そのようなことを考える今日この頃です。